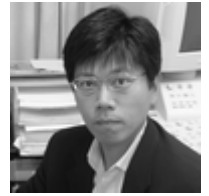




長引く咳にご注意を

～結核は過去の病気じゃありません①～



医療法人社団 秀皓会 理事長 船本 全信

さて、今回は今も増え続けている病気「結核」について書いてみます。今でも年間20,000人以上の新しい患者が発生し、年間で2,000人以上の人が命を落としている日本の重大な感染症（厚生労働省：平成24年結核登録者情報調査年報）で、世界では毎年実に130万人もの人が結核で亡くなっています（WHO, Global Tuberculosis Report, 2013）。西宮市でも平成26年は72名が新たに結核を発病していますが、高齢化に伴い70歳以上の結核発病者が「半数以上」を占めています。しかしながら、若い世代での結核の発病も少なくありません。これは、若い世代には結核に対する免疫が弱い方が多く、不規則な生活や無理なダイエットなどで免疫力が落ちているときに「感染」し、結核が「発病」しやすくなるためです。

ここで注意ですが、「結核菌に感染する」と「結核を発病する」ことは違います。結核を発病している人が、体の外に菌を出すことを「排菌」といいます。咳やくしゃみをする「飛沫」（シブキ）に含まれる結核菌が空気中で飛び散り、それを他の人が吸い込むことにより「感染」します（空気感染）。しかし、結核菌を吸い込んでも必ず「感染」するわけではありません。多くの場合、体の抵抗力により排除されます。しかし、しぶとく菌が体内に残ることがあります。その場合、免疫が結核菌を取り囲み「核」を作ります。

「結核」という名の由来はそこにあります。結核菌が体内に残っていても、殆どの場合免疫によって封じ込められたままで「一生」発病しません。こうして菌が体内に潜伏し、封じ込められたまま活動していない状態のことを「(初期)感染」といいます。「感染した」だけの状態なら、周囲の人が「感染」する心配はありません。また、「感染」したからといって、全ての人が「発病」するとは限りません。「発病」とは感染した後、免疫力の低下により結核菌が活動を始め、菌が増殖して体の組織を冒してゆくことを言います。成人の結核はこのようにして感染を受けてから1年以上、長い場合には何十年も経ってから、菌が人の「弱み」に乗じて暴れ出した結果起こる病気です（時として「感染直後」に十分な免疫の出来にくい状況だと、初期の病巣がそのまま進行して病気になることもあります。赤ちゃんや子供の結核の大部分、青年がかかる結核の一部はこのようにして発生します）。そしてさらに症状が進むと、咳や痰と共に菌が空気中に吐き出される（排菌）ようになります。一般的に、私たちが普通に会話をしているときにも、肺の奥から目に見えない「飛沫」が吐き出されます。「ゴホン！」と1回咳をすると、普通の会話をしている「5分間分」にあたる大量の「飛沫」が放出されるといいます。たまたまこの人が肺結核患者であった場合、この「飛沫」の中に結核菌が含まれており、これを近くににいる人が吸い込むと肺に「感染」が起きる可能性があります。この「飛沫」の中の結核菌は、日光に当たると紫外線により殺菌されてしまいます。ですから、結核「感染」は、喀痰検査で菌が痰の中に「大量に」証明される患者が、咳をしたその「飛沫」を「大量に」吸い込む可能性のある家族とか親しい友人等（当然医療・介護従事者もです）が感染することが多く、「感染」防止のため「隔離」が必要となります。因みに、食器などの物を介して結核がうつることは決してありません。また、「発病しても排菌していない」場合は、他の人に感染させる心配はなく、当然隔離も必要ありません。

結核菌は肺に巣食うことが多いのですが、実は「肺外結核」と言って、全身の色々なところに病巣を作ります。侵される臓器としてはリンパ節が最も多く、とくに多いのが首の脇が腫れる「頸部リンパ節結核」で、昔は「るいれき」と呼ばれていました。また骨や関節にもできますが、背骨にできるのが「脊椎カリエス」です。次に腎臓（腎結核）が多く、膀胱などを巻き込むこともよくあります。このほか喉頭、腸、腹膜、また眼や耳、皮膚、生殖器にくることもあります。いちばん怖いのは「脳」にくる場合です。結核菌が血流に乗って全身にばらまかれ（粟粒結核）、脳を包んでいる膜（髄膜）にたどり着き、そこに病巣を作ることによって起こります（結核性髄膜炎）。化学療法のない時代には粟粒結核や髄膜炎はただちに「死」を意味していました。今日では粟粒結核は早く発見すればかなり助かりますが、髄膜炎は今でも3分の1が死亡、治っても半数近くは脳に重い後遺症を残します。肺外結核は今日では結核患者全体の約7%に見られます。こんな恐ろしい病気が今もなお増え続けているのです。（続く）

【ふなもとクリニック エコー検査・食事相談予定】

2月の予定

エコー検査	井上先生	13(土)午後のみ
	杉山先生	5(金)・12(金)・19(金)・26(金)
	池田先生	9(火)・23(火)
	山本先生	4(木)・27(土)
食事相談	宮本管理栄養士	8(月)・27(土)



3月の予定

エコー検査	井上先生	26(土)午後のみ
	杉山先生	4(金)・11(金)・18(金)・25(金)
	池田先生	8(火)・22(火)
	山本先生	5(土)午後のみ・19(土)午後のみ
食事相談	宮本管理栄養士	14(月)



高齢化社会と病気 パーキンソン病

2016年も、正月が過ぎ、松の内が終わり、えべっさんも例年にない大賑わいの内に三日間が終わりました。今年は、明らかな暖冬で、過ごしやすい？(スキー場や、札幌の雪祭りのような雪が必要な所では非常に困っておられますが・・・)と感じられておられる方も多いのではないのでしょうか。

冬は寒いだけではなく、特に御高齢者にとっては、骨関節の痛みがひどくなったり、筋肉のこわばりも強くなり、ひとつひとつの動作がしにくくなる季節でもあります。さて、この動作がしづらくなるという症状が見られる有名な病気のひとつに、パーキンソン病があります。パーキンソン病は歴史のある病気で、1800年代に、イギリスの医師ジェームズ・パーキンソンによって、報告がなされました。その内容は、異常な歩く姿勢と、そのために必然的に起こりうる歩行障害、手指のふるえという病気の特徴と、数年のうちに動けなくなり、死に至るという恐ろしいものでした。当時は、原因もよくわからず、そのために有効な治療法も見いだせられないため、ある意味やむを得ない内容でした。その後、徐々に原因も究明され、それに伴い治療法も確立されるに至り、今では十分に寿命を全うできる病気と認識されるようになりました。

パーキンソン病は、ずばり分かり易く言えば、すべての動作(しゃべる、考えるも含めて)が、徐々にゆっくりとなってきます。まるで、意図的に、怠けているかのように(かつては、なまけ病と、ひどい言い方をされていた時もあったと聞いています)。発症年齢は約60歳以上(中には若年性パーキンソン病というのがあって、比較的若い年代(20歳~)で発症される方もおられますが、数としては比較的少ないです)、性差なく、人口10万当たり、100~150人の発症者と言われていました。原因は、脳の中にある中脳と言う場所の一部の脳細胞が徐々に消滅することであると分かっています。この特別な脳細胞から、神経を介して筋肉に動作の情報を伝える大切なドーパミンという化学物質が放出されています。しかし、パーキンソン病の患者さんの脳の中では、これら脳細胞が消滅することで(これが未だ解明されていない最大の謎)、ドーパミンも徐々に少なくなっていく、最終筋肉に脳から動作情報が伝わらなくなって、動作すべてがスローになるわけです。

動作が鈍くなってくると、着替えに時間がかかるようになり(この時点で、家の人が本人を連れて、受診に来られる事が多いです)、自転車に乗れなくなったり、乗っていてもこけ易くなったりします。また、顔に表情がなくなったと言われるようになり、声が小さくなり、何を言っているのか分からないと言われるようになります。さらに、字を書いていると、どんどん小さくなってしまふことに気付かれたりもします。一番の問題は、歩く姿勢の変化です。徐々に前傾姿勢になり、手も振らず、歩幅もどんどん短くなり、急に止まったり、なかなか足が出なくなります。これが、パーキンソン病の歩行障害です。症状が、どんどん進行すると、転倒しやすくなり、時には骨折することもあります。重度になると、動けないだけではなく、しゃべれなくなり、また飲み込みが極度に悪くなって、肺炎を繰り返すようになり、生命の危機にさらされるようになります。

これらの症状は、無治療状態では、数年の期間でどんどん進行し、最終的には死に至りますが、ドーパミンが欠乏することが原因であると分かっているからは、薬の開発が行われ、普通に日常生活が送れるようになりました。

パーキンソン病は、治療・副作用に関しても、内容が豊富であり、iPS細胞に絡んで、今後の展望も広がっています。話す事柄が多いため、今回はこの当たりで失礼いたします。治療等に関しては、次回以降に予定させていただきます。

ふじもとクリニック院長 藤本

◆ふなもとクリニック 〒663-8165 西宮市甲子園浦風町7-13 tel.0798-81-1192

◆ふじもとクリニック 〒663-8165 西宮市久保町7-35 レインボー酒蔵通1F tel.0798-42-7692

◆居宅介護支援事業所・ヘルパーステーション ふくろう 〒663-8165 西宮市甲子園浦風町6-20

◆訪問看護ステーション・デイサービスセンター ふくろう tel.0798-40-9500(代表) 0798-49-7670(デイ直通)